

安全バイアス（多分自分は大丈夫という
誤った思い込み）から脱しよう！

平成28年2月14日
せんげん支隊 情報・広報班

ついこの間年が明けたと思ったのに、もう2月、本当に「Time flies like an arrow!」ですね。

昨年1年間、小川地区としては大きな災害もなく、平穏な1年でした。「東京で、今後30年以内に70%の確率で震度7以上の大地震が発生する。」という予測が出されたのは5年前の東日本大震災の直後でした。あれからすでに5年が経とうとしています。いつ大地震が起こってもおかしくありません。

みなさん、大地震から生き残れる確率は80%以上自助努力をしているかどうかにかかっています。アンケートでは食料や飲料水の備蓄すら十分でない世帯がかなりあります。

今年の目標として、最低1週間は電気・ガス・水道が使えなくても生活できる用意をしてほしいと思います。頑張ってください。

1 せんげん支隊の主な備品の整備状況（2016年度予算にて購入した備品）

- ① 防災倉庫（防犯対策部との共用であった倉庫が手狭になったので防災予算で購入した）
- ② リヤカー（非常時の物資運搬用として、また負傷者の搬送用として5支隊に各1台購入した）
- ③ トランシーバー（非常時の通信手段の確保のため、各支隊・本部に各2台、青パト用として1台、計13台購入）
- ④ スタンドパイプ（一部町田市の補助を受けてスタンドパイプを1台購入、せんげん支隊の管理となった。（昨年度購入した1台と合わせて2台となった））

2 今1度、大地震への備えを

1月17日（日）の夜、NHKのスペシャル番組「震度7ーなにが生死を分けたのか」を見ました。大変ショッキングな内容でした。21年前の1月17日、震度7の激震が神戸市を襲い、その日のうちに5,036人の人が亡くなりました。驚いたのは発災1時間後には900人以上の人が生存していたこと、5時間後にもまだ500人近くの人が生存していて救助を待っていた、そして、その人たちのほとんどが救助の遅れと通電火災による大規模な火災により命を落としたという事実でした。教訓として、自分と家族の命を守るにはまず第1に震度7でも家が倒壊しないこと、第2に通電火災を防ぐこと、第3に非常時には自家用車の使用は極力避けること、（車があふれると救助活動の妨げとなります）が絶対に必要だと改めて痛感させられました。

皆さん、自宅の耐震強度は大丈夫ですか。通電火災防止のため、感震ブレーカーを設置しましょう。この2つのことは自分と家族の命を守り、ひいては地域の安全を守るためにも必要なことです。

3 防災おさらいクイズ No2（「東京防災」より）

- ① 日常備蓄とはどんなことを言う？（答 85ページ）
- ② 非常用持ち出し袋はどこに置いておくのがよい？（90ページ）
- ③ 家具類の転倒によっておこる可能性がある二次災害は？（95ページ）
- ④ 家の中で怪我を防ぐために、どんなチェック・対策をすればいい？（96ページ）
- ⑤ 地震の揺れで倒壊してしまう可能性があるのはどんな建物？（106ページ）
- ⑥ 地震後の出火や延焼を防ぐために備えておくべき物・注意すべきことは？（109ページ）
- ⑦ 避難所と避難場所の違いは？（115ページ）
- ⑧ 家族が離ればなれになった時のために、準備しておくべきことは？（122ページ）
- ⑨ 次の番号はそれぞれどこにつながる？（128ページ）
イ 171番 ロ 110番 ハ 119番
- ⑩ 防火防災訓練の種類を3つ挙げよ。（132～134ページ）

備蓄品⇒

